

Week2 Pythonによる科学計算

M 尾·岩澤研究室 MATSUO-IWASAWA LAB UTOKYO 講師:山際

本講義でできるようになること

- 1. np.array() でndarrayを作成できる
- 2. ユニバーサル関数によって、for文なしで要素ごとの計算ができる
- 3. ブロードキャストによって、サイズの違う配列同士で演算できる
- 4. ndarrayのインデックスやaxis(軸)の概念が分かる
- 5. インデクシングによって、配列から任意の要素や配列を取り出せる
- 6. 集約関数によって、axisごとの統計量を算出できる

week2 Pythonによる科学計算(Numpy) **目次**



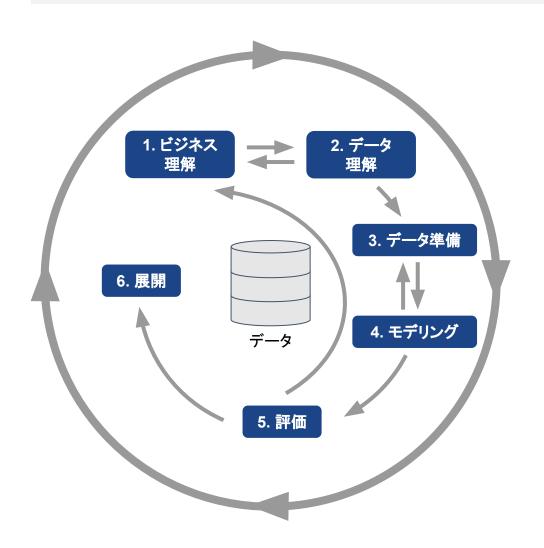
本講義で扱うこと/扱わないこと

	扱う	扱わない
配列の次元	1次元・2次元配列	3次元以上の配列
内容の複雑度	Numpyの基礎的な操作 (Numpy公式ドキュメント参照)	Numpyを用いた複雑な操作 (機械学習モデルの定義など)
演習用notebook	GCIで今後も出てくる 基本的な操作や関数	練習問題, 線形代数に関する詳しい解説

week2 Pythonによる科学計算(Numpy) はじめに



データマイニング: 大量のデータから有用な知識や規則性を発見・抽出するプロセス

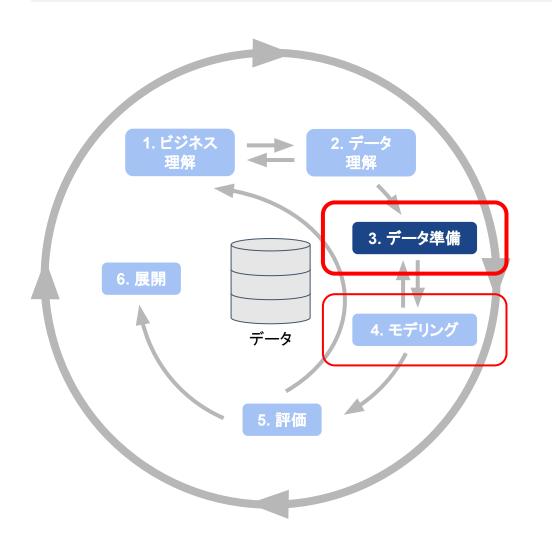


本講義のゴール

Numpyを使用した基本的なデータ操作を習得する

はじめに

データマイニング: 大量のデータから有用な知識や規則性を発見・抽出するプロセス



本講義のゴール

Numpyを使用した基本的なデータ操作を習得する

3. データ準備

データを適切な形式に整える・・・

データを分析やモデリングに適した形式に 整形する



Numpy: Pythonで複雑な科学計算を行うためのライブラリ

Numpyの特徴

- 1. numpy.ndarrayにより、N次元配列を効率的に扱うことができる
- 2. ユニバーサル関数によって、for文なしで複雑な計算ができる
- 3. 計算が高速(Numpy内部は高速なC言語が主に使われている)
- 4. 科学計算のための豊富な関数がある

ライブラリ:プログラムを書く際に便利なツールや機能を集めたもの



Numpy: Pythonで複雑な科学計算を行うためのライブラリ

2. ユニバーサル関数によって、for文なしで複雑な計算ができる

Numpyを使って計算する場合

input

$$sum = a + b$$

少ない記述で済む!

リストのまま計算する場合

```
sum = []
input
for i in range(len(a)):
    sum.append(a[i] + b[i])
```

Numpyの始め方① インポート方法

慣習により、Numpyはnpと略して扱います。

以下のようにimportしてください。

input

import numpy as np

※ as ○○ で略称を指定する



Numpyの始め方② 関数

様々な関数名を○○部分に指定して、()内のオブジェクトに処理を適用します。

例えば、以下のように使うことができます。

$$array_a = np.array([5, 6, 8])$$

week2 Pythonによる科学計算(Numpy)

Numpy (Numerical Python)とは

M

Numpyの始め方③調べながら学ぶ

関数は暗記するものではなく、調べるものです。

Numpyには(Numpyに限らず)、膨大な数の関数が用意されています。

やってみたいことがあれば、公式ドキュメントなどで検索してみましょう!



User Guide API reference Development Release notes Learn

How to import NumPy

To access NumPy and its functions import it in your Python code like this:

import numpy as np

We shorten the imported name to np for better readability of code using NumPy. This is a widely adopted convention that makes your code more readable for everyone working on it. We recommend to always use import numpy as np.

1次元配列

week2 Pythonによる科学計算(Numpy) 配列の作成と基本操作

【復習】Pythonには、**リスト**というデータ型がある

リストとは、[]で囲われ、カンマで区切られた複数の値を持つ形式です。 リストは以下のように作ることができます。

配列の作成と基本操作

Numpyの配列「ndarray」の作成

Numpyでは、numpy.ndarrayというデータ構造で配列を扱います。 ndarrayは np.array(リスト) で作ることができます。

```
array_a = np.array([0, 1, 2, 3, 4])
array_a

output

array([0, 1, 2, 3, 4])
```

ndarrayには、様々なNumpyの機能を適用できます。

week2 Pythonによる科学計算(Numpy) **配列の作成と基本操作**

リスト型データとnumpy.ndarrayの比較

	リスト	numpy.ndarray
格納できる要素の型	異なる型の値を格納できる	同じ型の値しか格納できない
四則演算	リスト同士の四則演算は煩雑	ndarray同士の四則演算が容易
多次元配列の扱いやすさ	入れ子構造で擬似的作ることは できるが、煩雑	axisという概念で効率的に 多次元配列を扱える

ユニバーサル関数 ufunc

ユニバーサル関数(ufunc):ndarrayを要素ごとに操作する関数

ndarrayは、同じ位置の要素同士で演算を行うことができます。

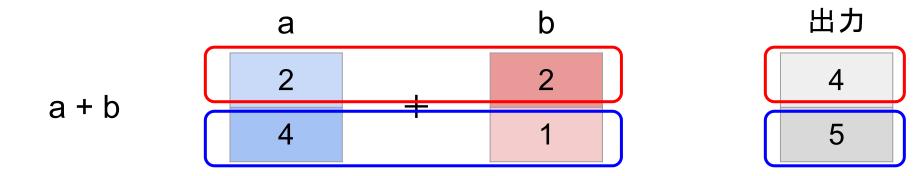
例) 足し算 a, bはndarray

ユニバーサル関数 ufunc

ユニバーサル関数(ufunc):ndarrayを要素ごとに操作する関数

ndarrayは、同じ位置の要素同士で演算を行うことができます。

例)足し算 a, bはndarray



※「a + b」は、本来は「np.add(a, b)」と書きます。

ただし「+」演算子は特別で、使用すると自動的にufuncである np.add(a, b) が実行されます。

-: 減法、*:乗法、/: 除法、**: 累乗も同様の書き方をすることができます。

week2 Pythonによる科学計算(Numpy) ユニバーサル関数 ufunc

M

ndarrayの四則演算

		а		b		出力
コ ル 佐	- la	2		2		0
引き算 np.subtract(a, b)	a - b	4	_	1		3
		a		b		
掛け算	a * b	2	*	2		4
知7万 异 np.multiply(a, b)	a * b	4	~	1		4
※内積や行列積ではない				b	•	
		а		D	ı	
割り算	o / b	2	,	2		1
司り 昇 np.divide(a, b)	a/b	4	/	1		4

ユニバーサル関数 ufunc

ndarrayの四則演算

実際にコードを書くときは、以下のようにします。

例)足し算 具体的な実装

```
a = np.array([2, 4])
input b = np.array([2, 1])
a + b

output array([4, 5])
```

ユニバーサル関数 ufunc

【復習】リストの場合の「+」演算子

※注意※リストで要素同士の四則演算を行う場合はforループが必要です。

2つのリストを「+」演算子で結合すると、リスト同士が連結されます。

また、「-,*,/」などの算術演算子を使用するとエラーが返されます。

M

ndarrayの条件演算

np.greater(a, b)

※小なり np.less(a, b)

		а		а
生 卫	0 == 0	2		2
等号 np.equal(a, a)	a == a	4		4
		а		b
等号	a == b	2		2
可 ク np.equal(a, b)	a D	4		1
		a		b
大なり	a > b	2	>	2
ノベダン	a > D			•

4

出力

True

True

True

False

False

True

week2 Pythonによる科学計算(Numpy) ユニバーサル関数 ufunc

【復習】リストの場合の条件演算

※注意※リストで条件演算を行うと、リスト全体に対する結果を返します。

	a = [2, 4]	
input	b = [2, 1]	
	a == a	
output	True	
input	a == b	
output	False	

M

ユニバーサル関数 ufunc

ユニバーサル関数:ndarrayの要素ごとに演算を行う関数

a = np.array([1, 2])

とすると、以下のような出力が得られます。

指数関数	input	np.exp(a)
7日 双 (大) 双	output	array([2.71828183, 7.3890561])
対数関数	input	np.log(a)
	output	array([0., 0.69314718])
		aの要素はラジアンとして計算される
	input	np.sin(a)
三角関数 ※ cosやtanも同様	output	array([0.84147098, 0.90929743])

ブロードキャスト

ブロードキャスト: 自動的に形状を合わせて演算を可能にする機能

スカラーが配列の形状に合わせて拡張されて、演算が行われます。

	а	スカラー	а		配列	出力
	2	+ 3	2		3	5
足し算	4	т 3	4	T	3	7
		•				
	а	スカラー	а		配列	
掛け算	2	* 1.6	2	*	1.6	3.2
IJI / 异	4	T 1.U	4	~	1.6	6.4

<u>集約関数</u>



集約関数: NumPyの配列内の要素を1つの値に集約する関数

a = np.array([1, 2, 3])

とすると、以下のような出力が得られます。

最大値

input	np.max(a)
output	3

合計值

input	np.sum(a)	
output	6	

平均值

input	np.mean(a)
output	2.0

標準偏差

input	np.std(a)
output	0.816496580927726

<u>インデクシング(1)</u>

冒頭クイズ インデクシング(1)

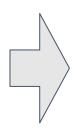
インデクシングによって、30分ごとの風速データから値を取り出してみましょう。

配列a 30分ごとの風速



[12, 13, 15, 14, 9, 11, 10, 13, 9, 7, 8, -3, -5, -11, -9, -12, -8, 0, 1]

- Q1.13:00のデータのみを取り出すには?
- Q2. 13:00~16:00のデータのみを取り出すには?
- Q3.00分ちょうどのデータのみを取り出すには?



インデクシングによって 取り出す

<u>インデクシング(1)</u>

インデクシング: ndarrayにインデックスを指定し、任意の要素を抽出

左から順に0, 1, 2, …のインデックスを指定して任意の要素を抽出することができます。

```
[0] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9]

配列a [0, 3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24, 27]

a = np.array([0, 3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24, 27])

a array([0, 3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24, 27])
```

インデクシング(1)

ndarrayにインデックスを指定し、任意の要素を抽出

左から順に0, 1, 2, …のインデックスを指定して任意の要素を抽出することができます。 1つの値のみを取り出したいときは、startのみを指定します。

a[1]

input a[1]
output 3

<u>インデクシング(1)</u>

ndarrayにインデックスを指定し、任意の要素を抽出

右から順に-1, -2, -3, …と指定して任意の要素を抽出することもできます。

一番最後のインデックスの値を取り出したい場合は、-1を指定します。

```
input a[-1]
output 27
```

インデクシング(1)

ndarrayにインデックスを指定し、任意の要素を抽出

複数のインデックスを指定して値を取り出すこともできます。 欲しい要素のインデックスをリストで指定します。

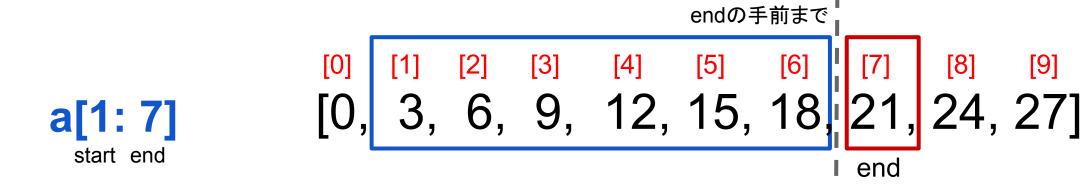
[0] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9] [1] [1], 4, 8] [0, 3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24, 27]

input a[[1, 4, 8]]
output array([3, 12, 24])

<u>インデクシング(1)</u>

ndarrayに[start: end: step]を指定し、任意の要素を抽出

連続したインデックスの値を取り出したいときは、startとendを指定します。 startとendの間には、スライス「:」を挟みます。

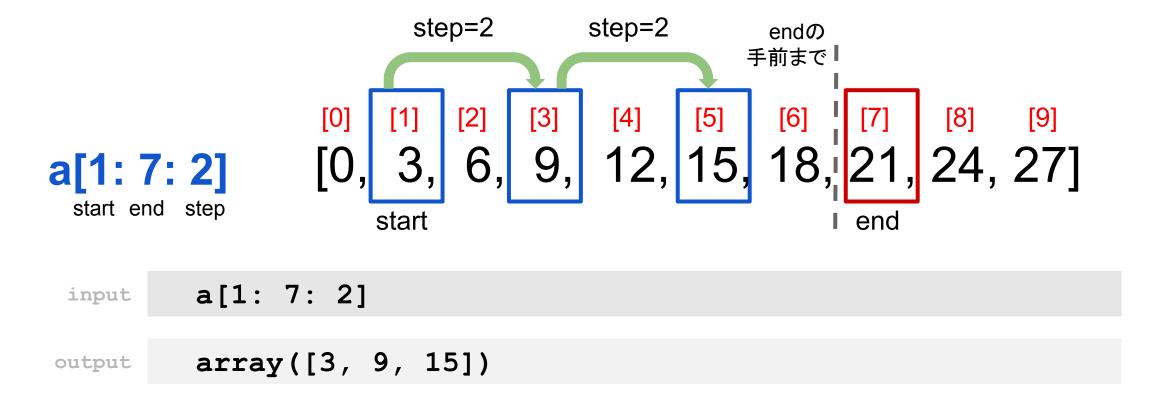


input a[1: 7]
output array([3, 6, 9, 12, 15, 18])

インデクシング(1)

ndarrayに[start: end: step]を指定し、任意の要素を抽出

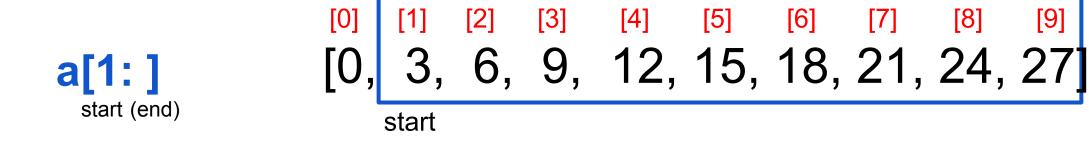
一定間隔でインデックスの値を取り出したいときは、start、end、stepを指定します。 startとendとstepの間には、スライス「:」を挟みます。



<u>インデクシング(1)</u>

ndarrayに[start: end: step]を指定し、任意の要素を抽出

start以降の全ての値を指定したい場合はスライス「:」の後ろのendを省略できます。

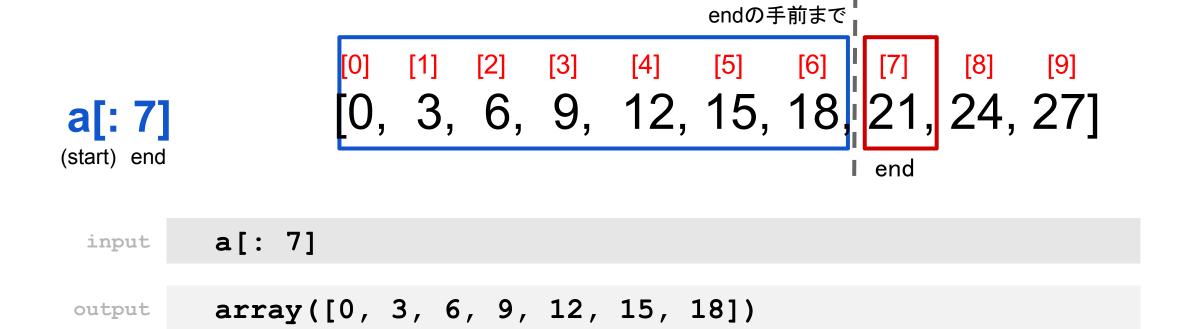


a[1:]
output a[1:]
output array([3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24, 27])



ndarrayに[start: end: step]を指定し、任意の要素を抽出

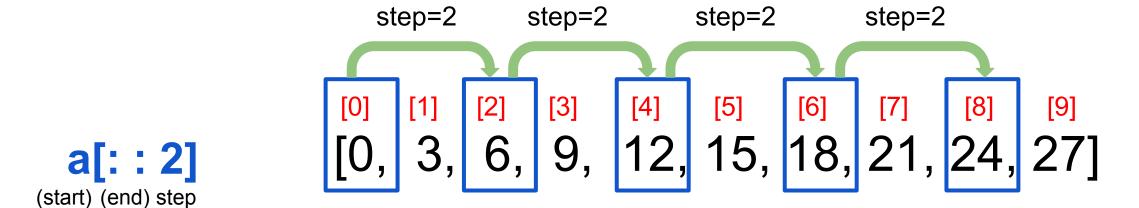
end以前の全ての値を指定したい場合はスライス「:」の前のstartを省略できます。



<u>インデクシング(1)</u>

ndarrayに[start: end: step]を指定し、任意の要素を抽出

配列内全ての一定間隔のインデックスの値を取り出したいときは、stepを指定します。 このとき、スライス「:」前後のstartとendは省略できます。

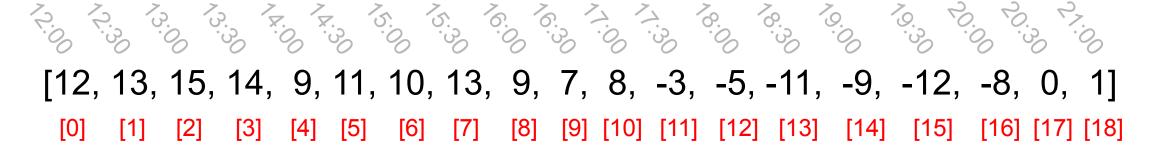


input a[:: 2]
output array([0, 6, 12, 18, 24])

<u>インデクシング(1)</u>

冒頭のクイズの答え インデクシング(1)

配列a 30分ごとの風速



Q1.13:00のデータのみを取り出すには?

M

<u>インデクシング(1)</u>

冒頭のクイズの答え インデクシング(1)

配列a 30分ごとの風速

Q1.13:00のデータのみを取り出すには?

```
input a[2]
output 15
```

<u>インデクシング(1)</u>

冒頭のクイズの答え インデクシング(1)

配列a 30分ごとの風速

[12, 13, 15, 14, 9, 11, 10, 13, 9, 7, 8, -3, -5, -11, -9, -12, -8, 0, 1]

Q2. 13:00~16:00のデータのみを取り出すには? (未満)

M

<u>インデクシング(1)</u>

冒頭のクイズの答え インデクシング(1)

配列a 30分ごとの風速

Q2. 13:00~16:00のデータのみを取り出すには? (未満)

```
input a[2: 8]
output array([15, 14, 9, 11, 10, 13])
```

<u>インデクシング(1)</u>

冒頭のクイズの答え インデクシング(1)

配列a 30分ごとの風速

[12, 13, 15, 14, 9, 11, 10, 13, 9, 7, 8, -3, -5, -11, -9, -12, -8, 0, 1]
[10] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9] [10] [11] [12] [13] [14] [15] [16] [17] [18]

Q3.00分ちょうどのデータのみを取り出すには?

M

<u>インデクシング(1)</u>

冒頭のクイズの答え インデクシング(1)

配列a 30分ごとの風速

Q3.00分ちょうどのデータのみを取り出すには?

```
input a[:: 2]
output array([12, 15, 9, 10, 9, 8, -5, -9, -8, 1])
```

2次元配列

N次元配列

numpy.ndarrayで、N次元配列データを表す

- 2次元以上(N次元)でもndarrayを作ることができます。
- 1次元の場合と同様に、基本的には以下のように作成します。

という書き方でもOK (改行は実行に影響ありません)

ネスト構造:リストの中にリストが入っている構造

N次元配列 ユニバーサル関数 ufunc

M

ユニバーサル関数(ufunc):ndarrayを要素ごとに操作する関数

2次元配列でも、要素ごとの演算の四則演算を行うことができます。

a + b

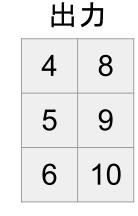
1	2
3	4
5	6

a





31	62	
23	54	
15	46	



а	-	b

	A
1	2
3	4
5	6

2

	_	-	

3	6
2	5
1	4



31	62	
23	54	
15	46	

出	刀
-2	-4
1	-1
4	2



ブロードキャスト: 自動的に形状を合わせて演算を可能にする機能

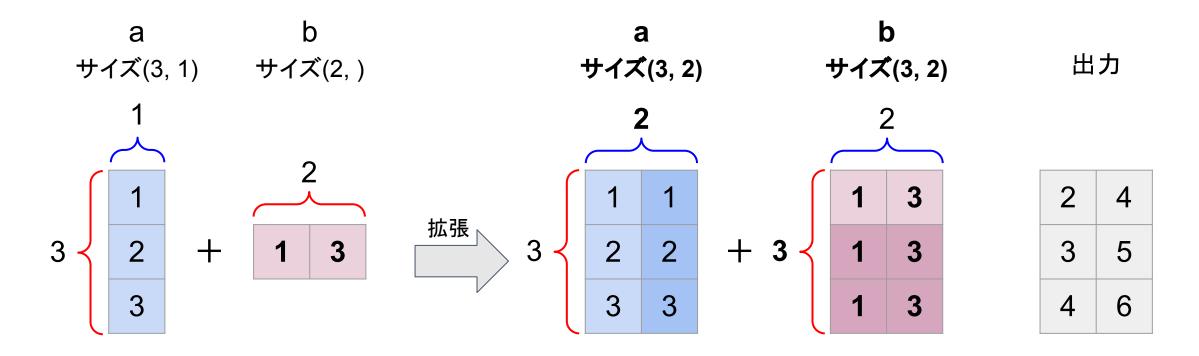
サイズが1の次元が、相手の配列の同じ位置の次元のサイズに拡張されます。

	a	スカラー		ć	а		西	列	出	力
1	2		拡張┌	1	2		3	3	3	6
3	4	* 3	JIA JIK	3	4	*	3	3	9	12
5	6		V	5	6		3	3	15	18
	a	b		ć	a		ŀ)	出	力
1	a 1	b	14.7 c	1	1		1	3	出	カ 4
		b + 1 3	拡張			+				



ブロードキャスト: 自動的に形状を合わせて演算を可能にする機能

サイズが1の次元が、相手の配列の同じ位置の次元のサイズに拡張されます。



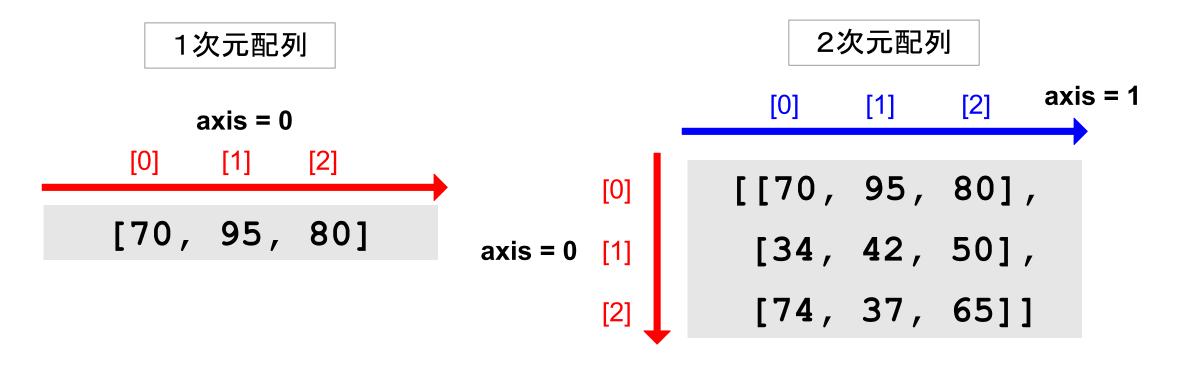
※ 1次元配列には内部で次元が追加され、 $(2,) \rightarrow (1, 2)$ の2次元配列に変換されてから拡張される

N次元配列の軸「axis」

axis:N次元配列に対して簡単に特定の方向にアクセスするための概念

ndarrayでは、axisという概念で軸方向が区別されます。

2次元配列の場合、axis=0は行、axis=1は列を表します。

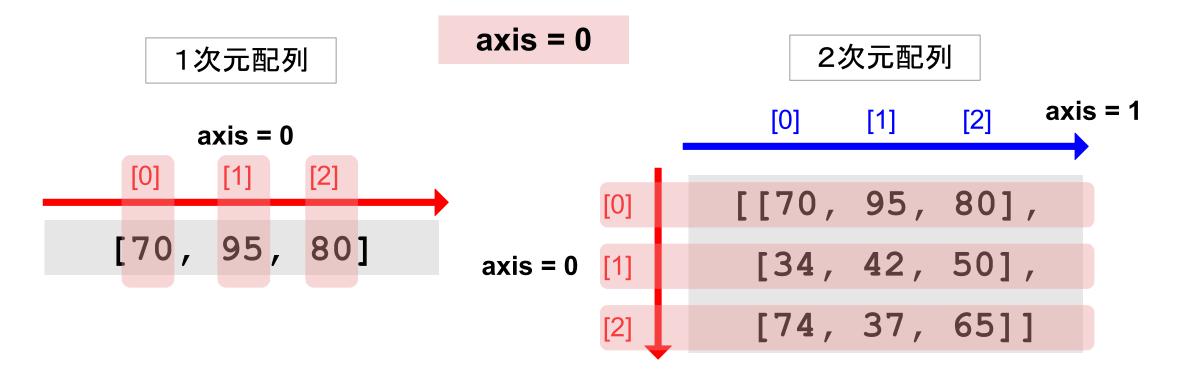


N次元配列の軸「axis」

axis:N次元配列に対して簡単に特定の方向にアクセスするための概念

ndarrayでは、axisという概念で軸方向が区別されます。

2次元配列の場合、axis=0は行、axis=1は列を表します。

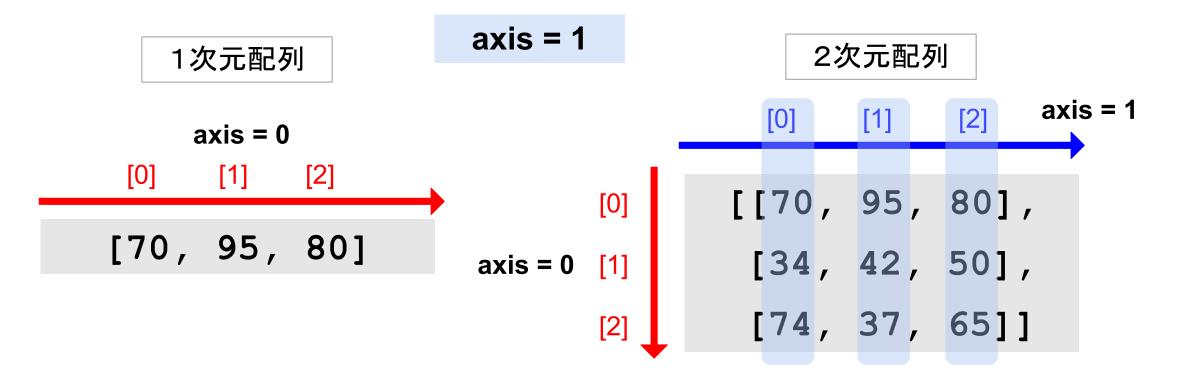


N次元配列の軸「axis」

axis:N次元配列に対して簡単に特定の方向にアクセスするための概念

ndarrayでは、axisという概念で軸方向が区別されます。

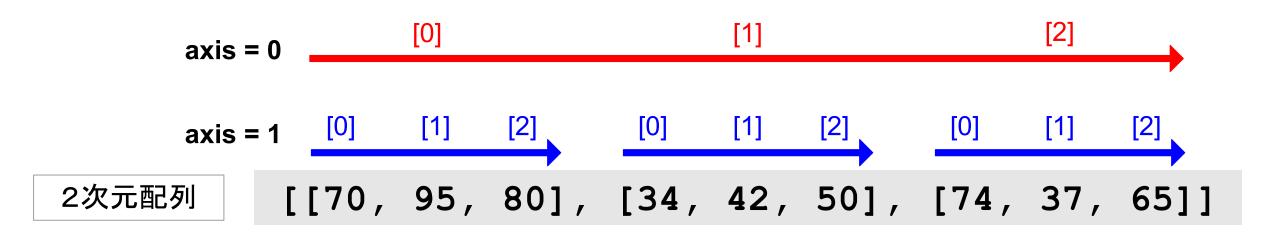
2次元配列の場合、axis=0は行、axis=1は列を表します。



week2 Pythonによる科学計算(Numpy) N次元配列の軸「axis」

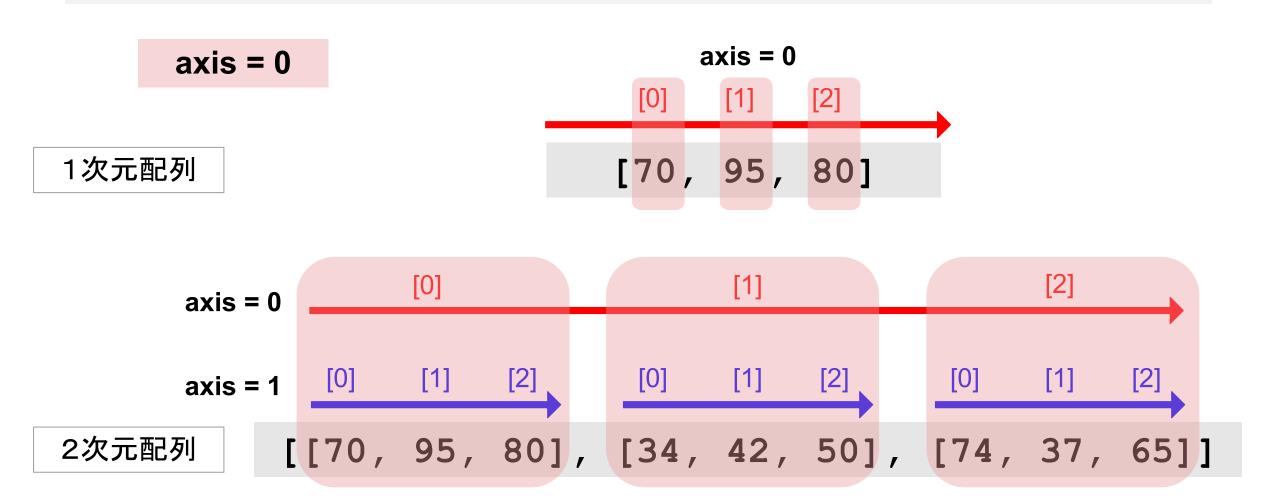
平たく書いてみると分かりやすい!





week2 Pythonによる科学計算(Numpy) N次元配列の軸「axis」

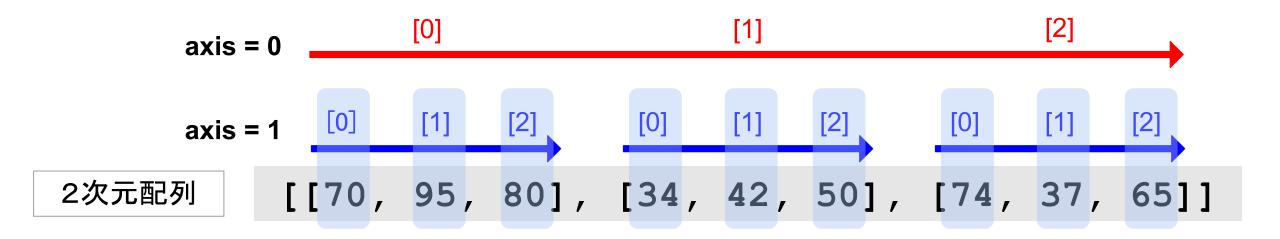
平たく書いてみると分かりやすい!



week2 Pythonによる科学計算(Numpy) N次元配列の軸「axis」

平たく書いてみると分かりやすい!

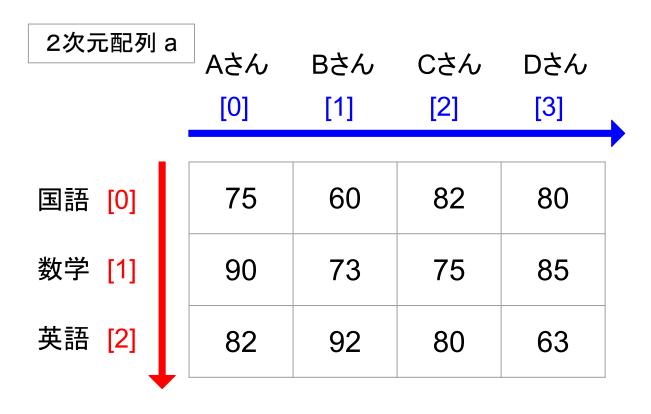




<u>集約関数</u>

集約関数: NumPyの配列内の要素を1つの値に集約する関数

集約関数を用いて、各次元ごとの最大値を出してみましょう。



- Q1. ADさんのそれぞれの 最高得点は?
- Q2. 各教科の最高得点は?



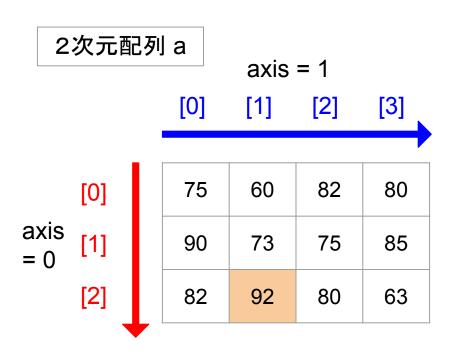
集約関数で調べる

week2 Pythonによる科学計算(Numpy)

М

<u> 集約関数</u>

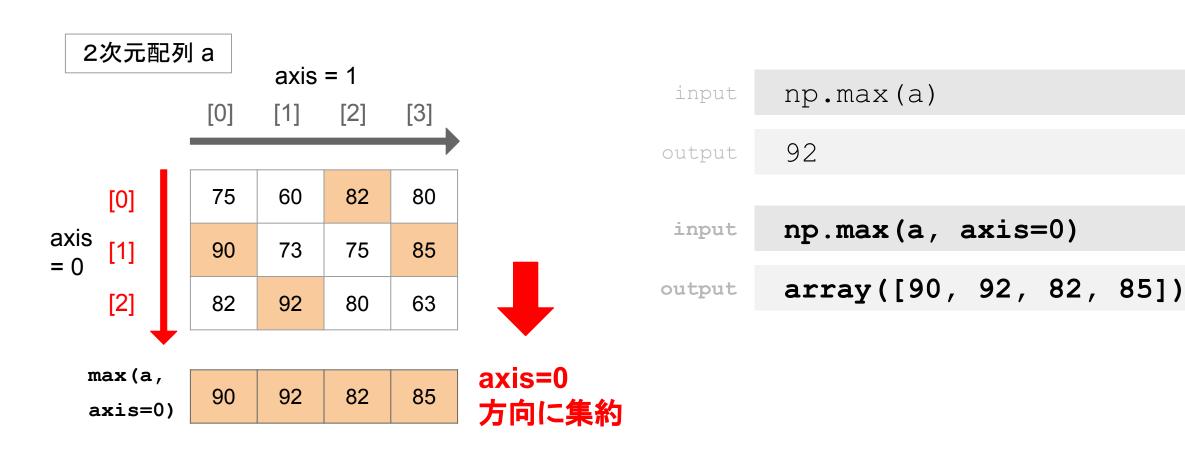
集約関数: NumPyの配列内の要素を1つの値に集約する関数



input	np.max(a)	
output	92	



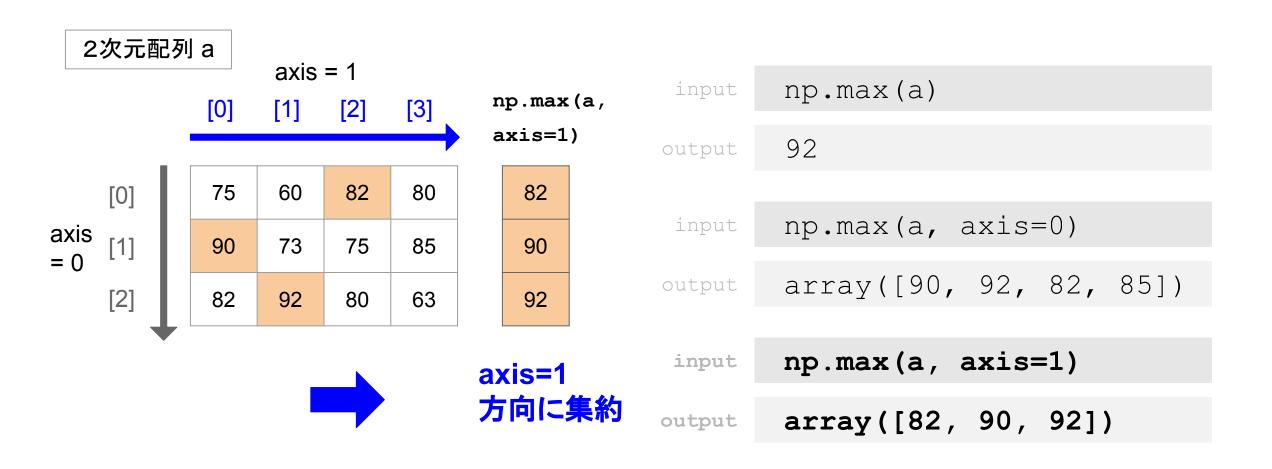
np.max(ndarray, axis=0)のように軸指定して、axis=0方向の最大値を得る



<u>集約関数</u>



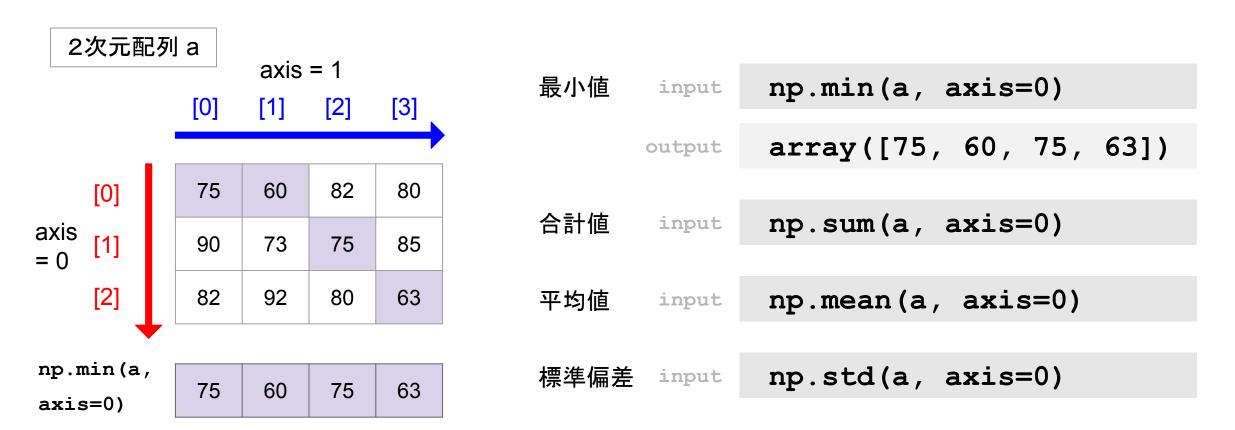
np.max(ndarray, axis=1)のように軸指定して、axis=1方向の最大値を得る



<u>集約関数</u>



np.max()以外の集約関数 np.min()、np.sum()、np.mean()、np.std()



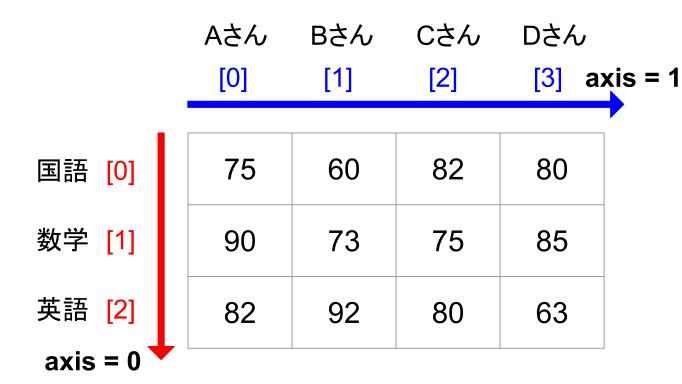
axis=0方向に集約

<u>インデクシング(2)</u>

冒頭クイズ インデクシング(2)

様々なインデックス指定方法で、2次元配列 a から任意の要素を抽出してみましょう。

2次元配列 a



Q1. Dさんの数学の成績は?

Q2. A, B, Cさんの国語と英語の 成績は?

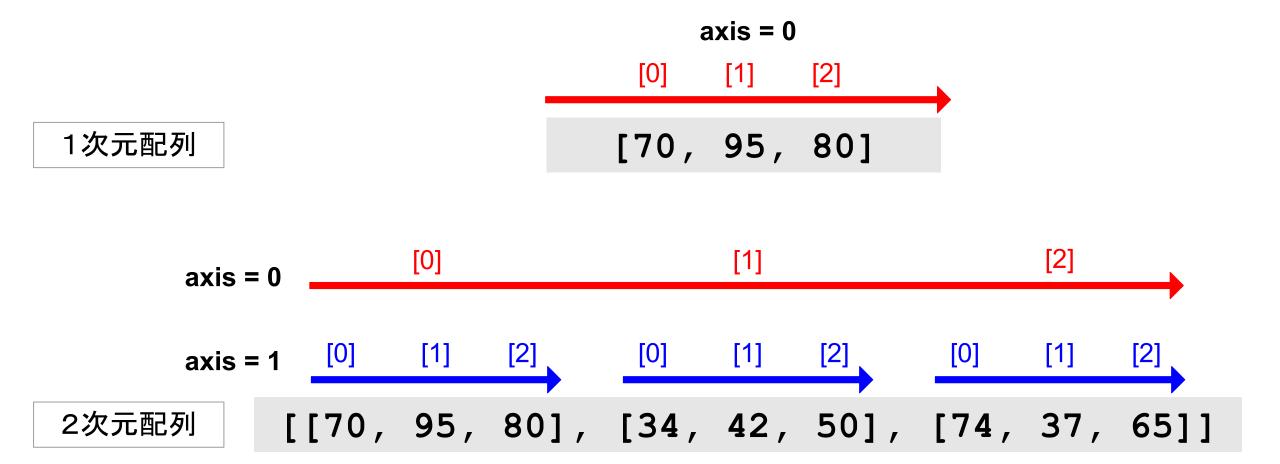


インデクシングによって 取り出す

M

N次元配列の軸「axis」

(再掲)2次元配列は平たく書いてみると分かりやすい!

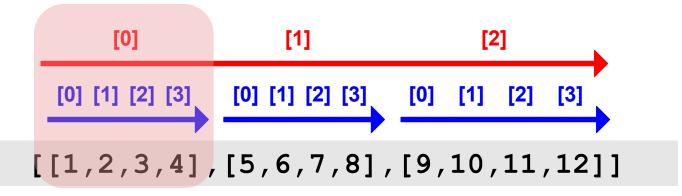






2次元配列から、axis=0方向の要素を取り出す





※ np.array()はスペースの都合上省略しています

```
欲しい出力
[0] [1] [2] [3]
1 2 3 4
```

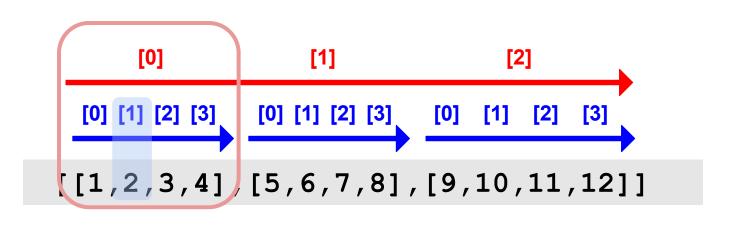
```
input a[0]
output array([1, 2, 3, 4])
```



低い次元からインデックスを指定して要素を取り出す(① axis=0 ② axis=1)



2

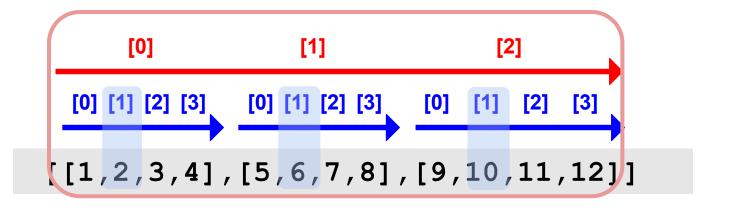


M

インデクシング(2) N次元配列の基本的なインデックス指定

連続している要素はスライスで指定する

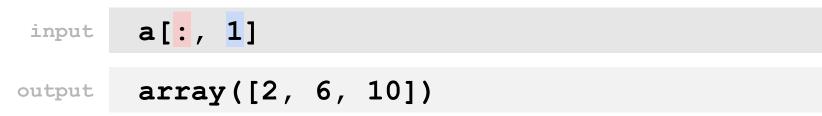




欲しい出力

2 6 10

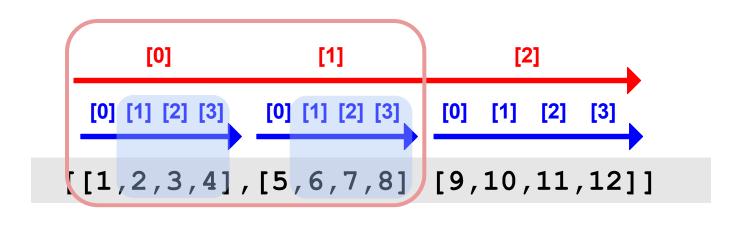
↓インデックスが連続しているので、スライスで指定できる





連続している要素はスライスで指定する

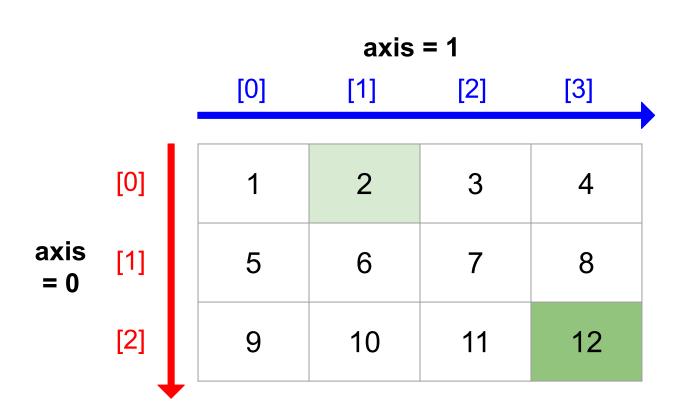


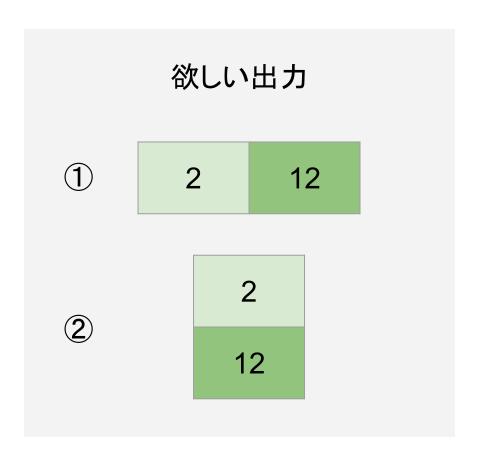




2次元配列から、離れた位置にある任意の要素を抽出する

離れた位置にある要素を任意の並び方で取り出すにはどうすれば良いのでしょうか?







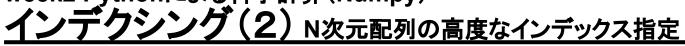
高度なインデックス指定のルール

離れている要素を任意の並び方で取得する方法には、以下のルールがあります。

(1)a[[axis=0のインデックス], [axis=1のインデックス]] のようにaxis毎に指定

(2)出力されるndarrayの「形状」や「要素の位置」はインデックス指定に従う

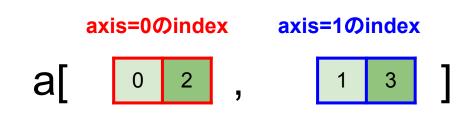
(3)ブロードキャスト機能を利用して、記述を省略できる





(1)a[[axis=0のインデックス], [axis=1のインデックス]] のようにaxis毎に指定



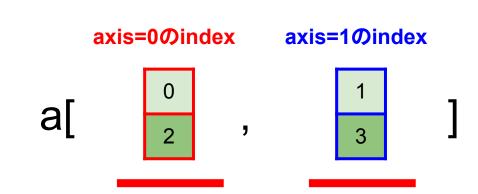


```
input a[[0, 2], [1, 3]]
output array([2, 12])
```



(2)出力されるndarrayの「形状」や「要素の位置」はインデックス指定に従う



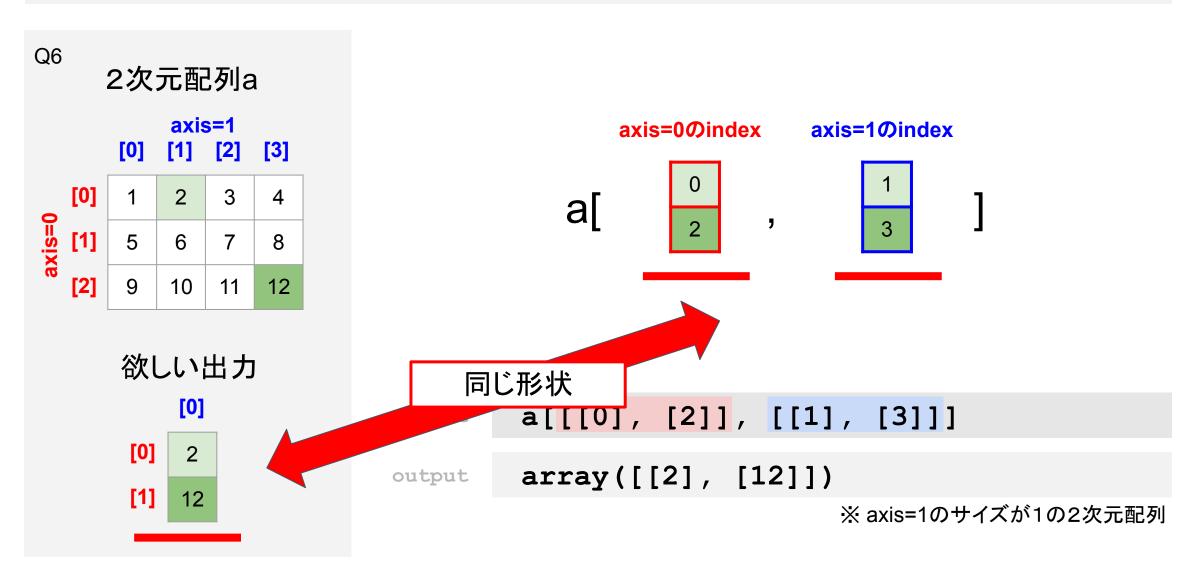


```
input a[[[0], [2]], [[1], [3]]]
output array([[2], [12]])
```

※ axis=1のサイズが1の2次元配列



(2)出力されるndarrayの「形状」や「要素の位置」はインデックス指定に従う





(3)ブロードキャスト機能を利用して、記述を省略できる①



ブロードキャスト: 自動的に形状を合わせて演算を可能にする機能





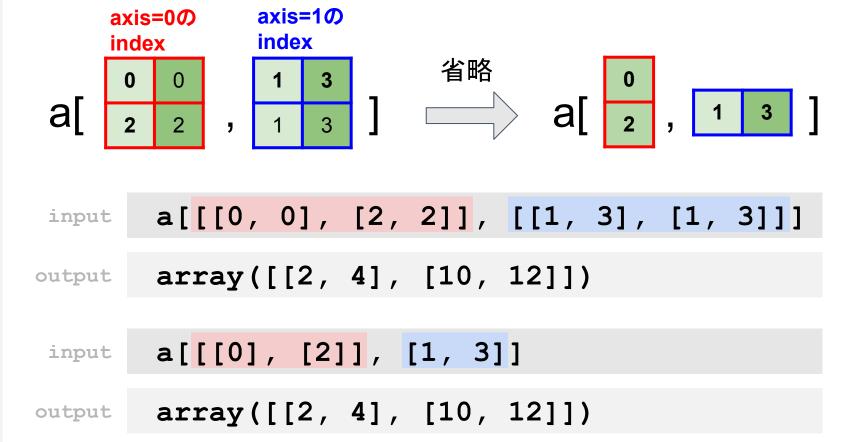
input	a[[0, 0], [1, 3]]	a[<mark>0</mark> , [1, 3]]
output	array([2, 4])	array([2, 4])



(3)ブロードキャスト機能を利用して、記述を省略できる②



ブロードキャスト: 自動的に形状を合わせて演算を可能にする機能



N次元配列 ブロードキャスト



(再掲)ブロードキャスト: 自動的に形状を合わせて演算を可能にする機能

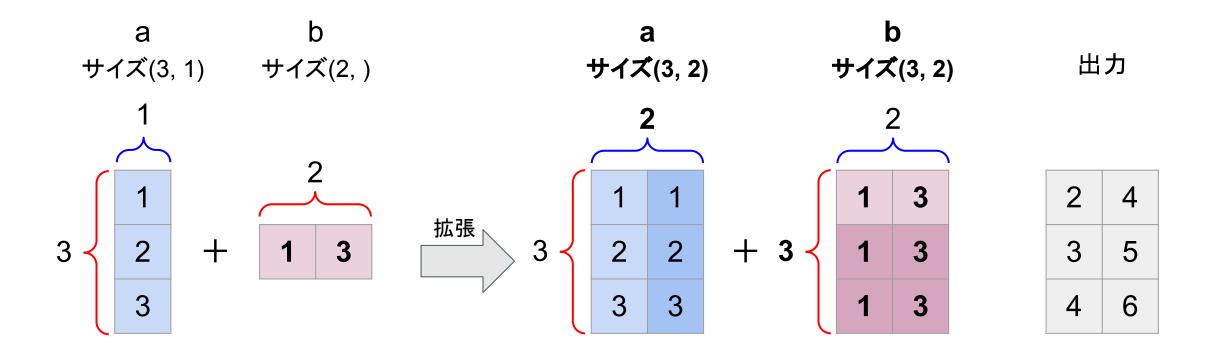
サイズが1の次元が、相手の配列の同じ位置の次元のサイズに拡張されます。

ć	а	スカラー		á	а		配	列	出	力
1	2		拡張┌	1	2		3	3	3	6
3	4	* 3	IIA JK	3	4	*	3	3	9	12
5	6		V	5	6		3	3	15	18
ć	а	b		á	Э		k)	出	力
1	a 1	b	LLac	1	1		1	3	出	カ 4
		b + 1 3	拡張			+				



(再掲)ブロードキャスト: 自動的に形状を合わせて演算を可能にする機能

サイズが1の次元が、相手の配列の同じ位置の次元のサイズに拡張されます。

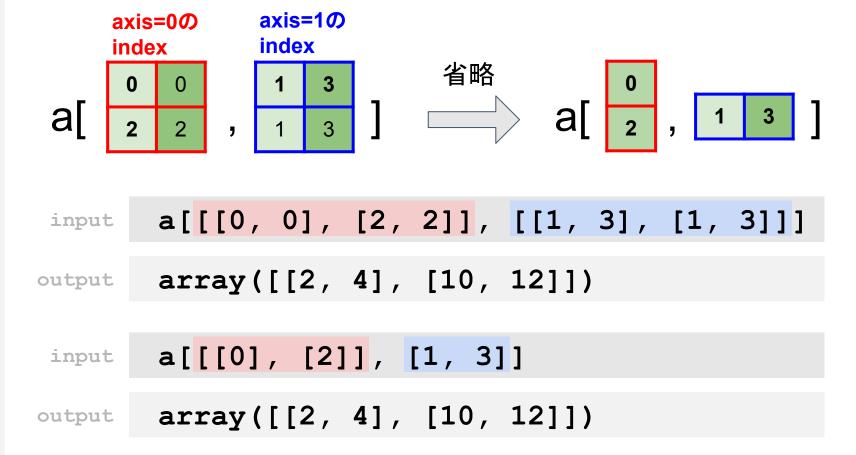




(3)ブロードキャスト機能を利用して、記述を省略できる②



ブロードキャスト: 自動的に形状を合わせて演算を可能にする機能

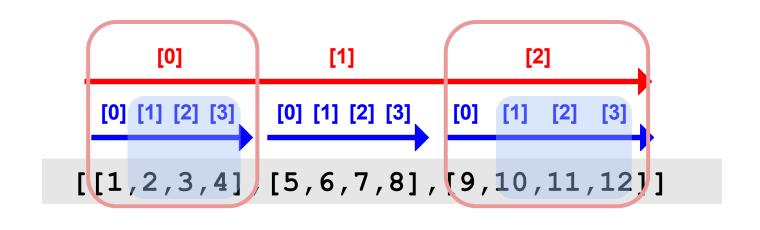




インデクシング(2)基本的なインデックス指定と高度なインデックス指定の組み合わせ

基本的なインデックス指定と高度なインデックス指定を組み合わせることも可能





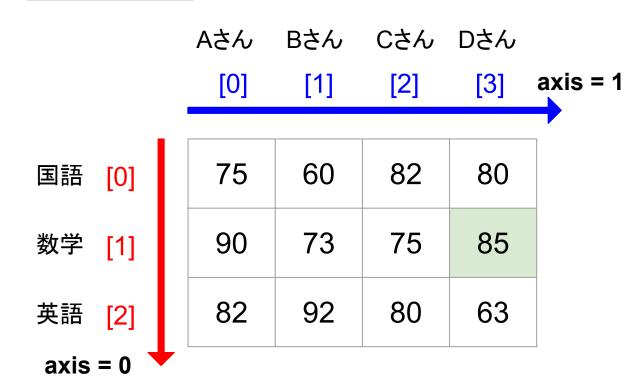
↓高度な指定 ↓基本的な指定

```
input a[[0, 2], 1:]
output array([[2, 3, 4], [10, 11, 12]])
```

<u>インデクシング(2)</u>

冒頭のクイズの答え インデクシング(2)

2次元配列 a



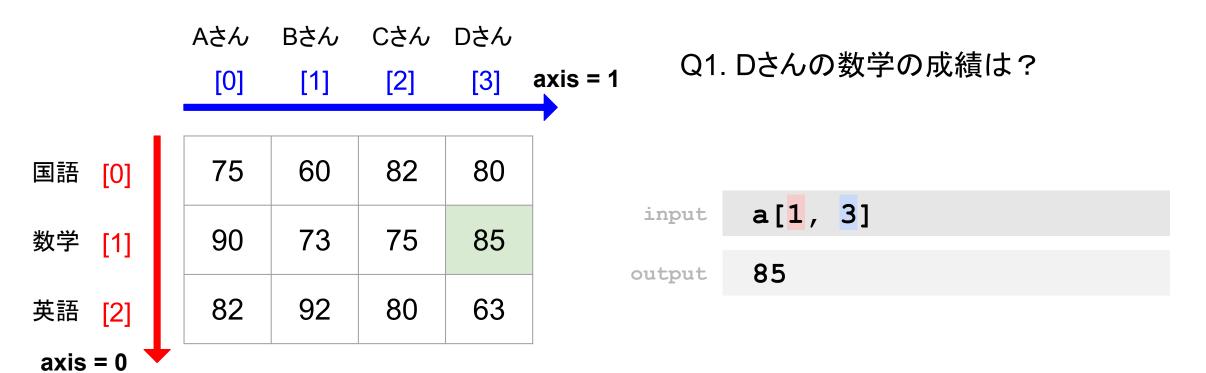
Q1. Dさんの数学の成績は?

M

インデクシング(2)

冒頭のクイズの答え インデクシング(2)

2次元配列 a

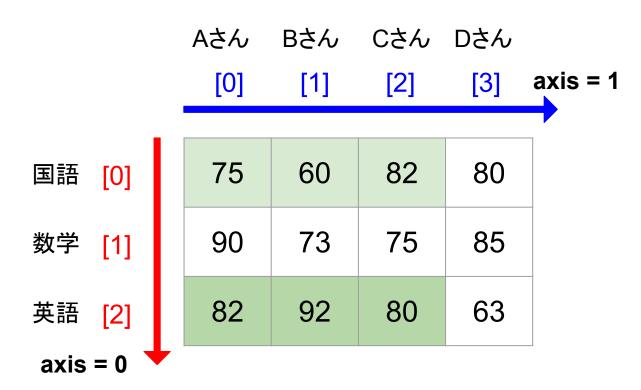


week2 Pythonによる科学計算(Numpy) インデクシング(2)

М

冒頭のクイズの答え インデクシング(2)

2次元配列 a



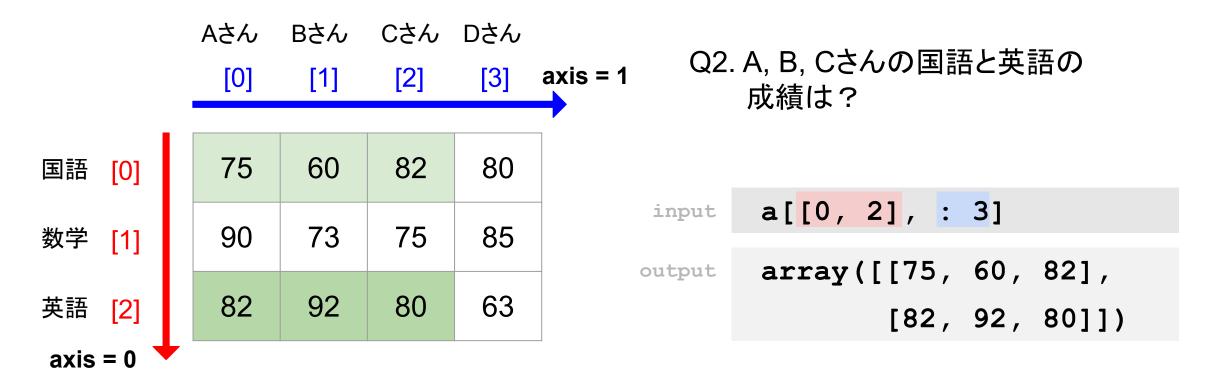
Q2. A, B, Cさんの国語と英語の 成績は?

M

<u>インデクシング(2)</u>

冒頭のクイズの答え インデクシング(2)

2次元配列 a

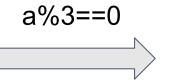


ブール値によるインデックス指定

ブール値によって取得したい値を指定することもできます。

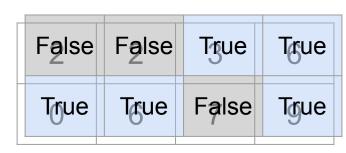
2次元 配列a

2	2	3	6
0	6	7	9



False	False	True	True
True	True	False	True









[3, 6, 0, 6, 9]

出力は1次元!

Numpy: Pythonで複雑な科学計算を行うためのライブラリ

- 1. np.array() でndarrayを作成できる
- 2. **ユニバーサル関数**によって、for文なしで要素ごとの計算ができる
- 3. ブロードキャストによって、サイズの違う配列同士で演算できる
- 4. ndarrayにはインデックスやaxis(軸)の概念がある
- 5. インデクシングによって、配列から任意の要素や配列を取り出せる
- 6. 集約関数によって、axisごとの統計量を算出できる

生成AIの利用について

講座受講の目的を考えて、適切な生成AIの利用を!

受講の手引き > はじめに > 生成AI(ChatGPT等)の使用について

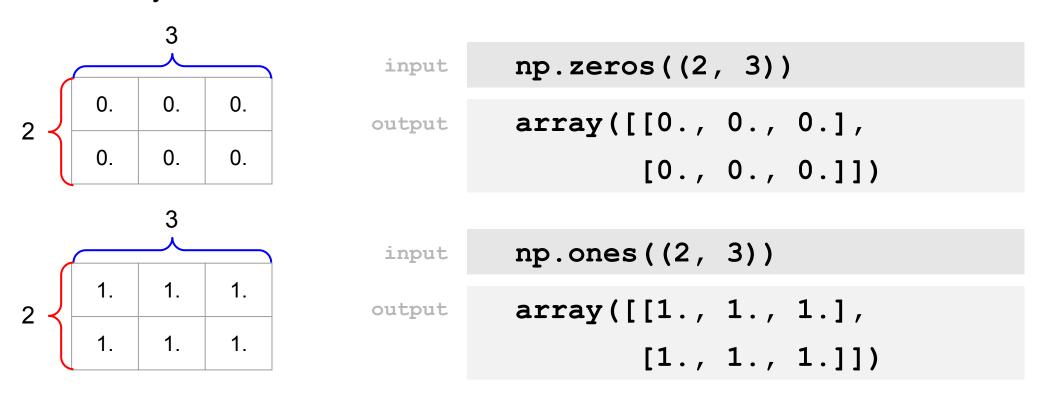
▼ 生成AI (ChatGPT等) の使用について

- 本講義での基本スタンスとして、ChatGPT含む生成AIを用いて作成したコードをそのまま 利用することはお控えください。生成AIの回答がすべて正しいとは限らないため利用者自 身で正しいかどうか見極めることも必要です。正しいかどうか判断できるような知識をつ けるためにも本講義では一度ご自身で演習などを参考に実装し、理解を深めることを推奨 いたします。
- GCI内におけるChatGPTを始めとしたLLMサービス(以下、「サービス」と記載)の利用に 関するポリシー
 - 1.「サービス」を利用した際の出力の責任は、使用者に帰属する。
 - a.「サービス」による出力が正しいとは限らないため、利用者自身で正しいかどうか見極める必要がある。そのため、「サービス」を使用する際の入力と出力は使用者自身で責任をもって管理/使用/評価すること。
 - 2. 講座受講の目的は、あくまでも学習である。この目的から外れる使い方は避ける。
 - a.「サービス」の出力をそのまま宿題の回答とする行為などは、学びの目的から大き く逸脱する。学びにつながらない使用は避けること。

MATSUO-IWASAWA LAB UTOKYO

休憩

【コラム】ndarrayを作る方法色々 0のみ、1のみの配列を作ることができる



※ 0. や 1. のように「.」が付くのは、float(浮動小数点数)型であることを表しているためです

補助資料 np.arange()

np.arange(start, stop, step): start から stop までのndarrayをstepの間隔で生成

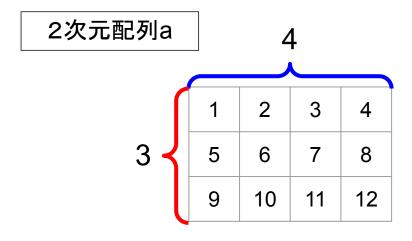
stopのみを指定して、startとstepは省略することができます。

```
np.arange(8)
input
        array([0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7])
output
        np.arange(2, 8)
input
        array([2, 3, 4, 5, 6, 7])
output
        np.arange(2, 8, 2)
input
        array([2, 4, 6])
output
```





np.reshape(array, new_shape):ndarrayの形状を変更するための関数



a.shape input (3, 4)output

axis=0の

axis=1の

a.reshape(2, 6) 2次元配列b

6 3 5 6 9 10 11 12

ndarray.reshape(サイズ のように指定する b = a.reshape(2, 6)input

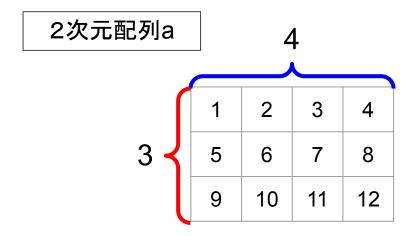
b.shape

(2, 6)output

補助資料

np.reshape()

要素数と他の次元のサイズが既知の場合、1を指定すると自動でサイズ調整される



2次元配列b a.reshape(2, -1)
6
2 1 2 3 4 5 6
7 8 9 10 11 12

(2, -1)を指定すると(2, 6)に自動変換される

b = a.reshape(2, -1)
b.shape

output (2, 6)

<u>補助資料 属性</u>

属性:ndarrayに関連付けられた情報

 2次元配列a

 4

 1
 2
 3
 4

 5
 6
 7
 8

 9
 10
 11
 12

ndarray.shape:配列の形状を示す

input a.shape

output (3, 4)

ndarray.ndim:配列の次元数を示す

input a.ndim

output 2

input

ndarray.dtype:配列のデータタイプを示す

a.dtype

output dtype('int64')

※ int64:64bit整数型

補助資料 ndarray.T 転置属性



ndarray.T: 転置。配列の行と列を入れ替える操作

